

小学校内容の先取りと、それらを活用させて解く「入試算数」の考え方を学びます。

「小数・分数の計算」「三角形や円の面積」「倍数・約数」などを3年生と同様、学校の授業よりも先取りして習得します。それに加え、「問題文の条件を線分図・ベン図を使って整理する」考え方や、「数列・投票」などの学校ではあまり目にしない、入試算数特有ともいえる形式の問題について解法を学習します。

学習例：◎入試算数の基本となる知識・解法を習得。

●入試算数特有の思考法を学習

中学入試で出題される算数の問題は、一般的に学校で学習する算数の内容だけでは太刀打ちできません。「数列」「相似」など、学校ではほぼ扱わない内容が出題されるほか、問題文の条件を線分図やダイヤグラム（進行グラフ）などに適切にまとめて、解き方を考えることが必須となるからです。問題文の条件を図に落とし込み、視覚的にわかりやすくするという手法は入試本番に一から思いつくものではなく、時間をかけて練習し、自分なりのわかりやすいかき方・とらえ方を確立させたうえで入試に臨むものです。

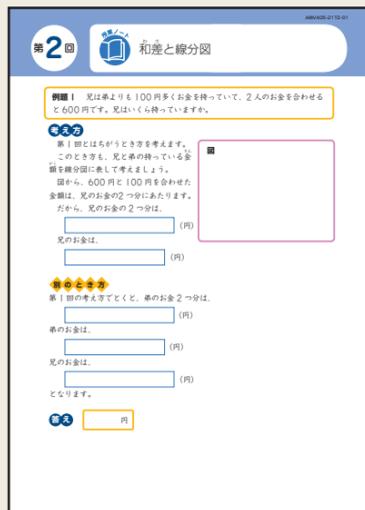
中学受験コースでは学校で習う内容を先取りして学習したうえで、これら入試算数に必要なものを追加して学習していきます。4年生では、問題文の条件整理として最も代表的な図である、線分図・ベン図のかき方を学習し、条件を整理・図示する練習を重ねていきます。

●頻出例題で、まずは解法の流れを知る

算数では、その回で紹介したい知識が実際にどのような形で出題されるのかをまず紹介します。頻出の出題形式を確認することで、「こういった出題で問われる知識・解法である」ことをまず認識します。

●「授業ノート」で一緒に図をかきながら要点理解

冊子でお送りする教材内の「授業ノート」を要点学習の際に使用します。解法をただ読むだけ、映像で確認するだけではなく、実際に用語を穴埋めしたり、図を一緒に作成したりするなど、手を動かすことで、要点の素通りを防ぎます。



要点

**例題1** 兄は弟よりも100円多くお金を持っていて、2人のお金を合わせると600円です。兄はいくら持っていますか。

先生の授業を見る

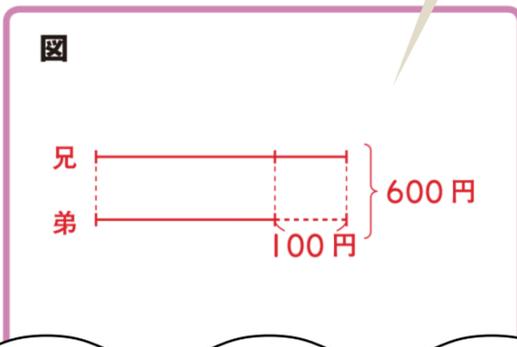
自分で要点を読む

考え方

第1回とはちがうとき方を考えます。このとき方も、兄と弟の持っている金額を線分図に表して考えましょう。

図から、600円と100円を合わせた金額は、兄のお金の2つ分に当たります。だから、兄のお金の2つ分は、

$$600 + 100 = 700 \text{ (円)}$$



$$700 \div 2 = 350 \text{ (円)}$$

別のとき方

第1回の考え方とくと、弟のお金2つ分は、

$$600 - 100 = 500 \text{ (円)}$$

弟のお金は、

$$500 \div 2 = 250 \text{ (円)}$$

兄のお金は、

$$250 + 100 = 350 \text{ (円)}$$

となります。

●複数ある解法についてもフォロー

答えが1つであったとしても、そこへ至るまでの道筋はいろいろあるのが算数です。Z会のテキストでは、要点・練習問題の解説の中で、必要に応じ別の解き方を紹介し、正解に至るまでのアプローチの仕方を1つでも多く身につけられるようにします。

多いほう2つ分にそろえても、少ないほう2つ分にそろえてもとくことができるんだね。



●既習内容対策に「追いつき教材」「入試算数の基礎30」をご用意

4年生算数では、整数のわり算の筆算など、中学受験コース3年生で学習した内容を学校未習であっても既知として扱います。とくに計算方法については自習で身につけるのが難しいため、そのフォローとしてアプリ内に「算数追いつき教材」をご用意しました。また、計算方法を含め、中学受験コース3・4年生で学習する内容をまとめた書籍『入試算数の基礎30』もございます。これらで未習内容を補完しながらご受講ください。

